

石川県立小松高等学校



1. 沿革

明治 31 年 石川県立第四中学校開校
 昭和 23 年 石川県立小松高等学校設置
 昭和 43 年 理数科を併置
 平成 11 年 創立 100 周年
 平成 18 年 新校舎落成

2. 教育目標

- ・ 自主自律，明朗誠実な生活態度を養う。
- ・ 個性を伸張し，正しく豊かな人間関係を培う。
- ・ 知性を高め，情操を陶冶し，文化創造の意欲と資質を培う。

3. 本校教育の特色

(1) 文武両道，自主自律の校風

一人一人を大切にきめの細かい進路指導により，東大・京大をはじめとする難関大学志望者に対する指導は充実しており，例年 50 名程度の合格者，国公立大学 250 名程度を排出している。

部活動への参加率はおよそ 90% で，平成 19 年度は弓道，ボート，カヌー，体操が全国総体，かるたが全国総文，放送が NHK 杯全国大会に出場している。



伝統のボート大会

(2) 「スーパーサイエンスハイスクール」

平成 18 年に文部科学省から指定。

(3) 「いしかわスーパーハイスクール」

平成 18 年に石川県より再度指定。

(4) 優れた進路実績，きめ細やかな進路指導体制…県内屈指の進学校。進路実現を強力にバックアップ。

(5) 緑豊かな自然，充実した学習環境…平成 18 年 3 月，新校舎が完成した。

(6) 百余年の伝統…3 万人余りの卒業生が活躍し，地域社会からも大きな期待がよせられている。



3 年生が大活躍する創立記念祭

4. 授業の充実

(1) 1 日 7 時間（水曜日のみ 6 時間），週 34 時間の充実した授業内容。

(2) 習熟度別授業，少人数授業を実施し，一人一人の能力を最大限に引き出す。

(3) 朝 8 時 20 分からの 10 分間の朝学習，毎日の小さな努力が 3 年後の大きな成果につながる。

(4) 年間 15 回前後の土曜ゼミの実施。

5. スーパーサイエンスハイスクール

本校は平成 15 年度に石川県の「いしかわスーパーハイスクール」の指定を受け，「小松スーパーサイエンス事業」を立ち上げ，独自の学校設定科目を設けたり，大学や研究機関での実験・実習を体験したり，大学教授等の研究者による先端の科学

文部科学省 研究開発校
スーパーサイエンス ハイスクール
 小松から世界をめざそう!!
 石川公立小松高等学校

科学的探究力 人間力 自己表現力 国際感覚



技術の講義を受けるなどの取り組みを行ってきた。この取り組みにより、生徒の科学に対する興味関心が高まり、科学系人材育成に一定の成果を上げることが出来た。これをもとに、さらにレベルアップした理数科教育を目指し、平成18年4月に「文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール」に指定された。

「国際的に活躍できる科学系人材の育成を目指し、探究能力・人間力・発表力・国際性を育成する教育課程と指導法及び小・中・高・大学・企業との連携の在り方の研究開発」を研究開発課題とし、取り組んでいる。

(研究開発内容)

1. 探究能力を伸長する教育課程や指導法の研究
 (ア) スーパーときめきサイエンス

大学や研究所の第一線で活躍する研究者による講義や実験の指導を受け、先端科学を体験させることで、科学に対する興味・関心を高め、科学に対する幅広い視点を持たせる。

(イ) 数学スーパーゼミ I

少人数によるモノを使つての体験や作業などを通して活動する。昨年度のテーマは「サッカーボールを作ろう」「トランプに潜む数理」「RSA暗号について」「三山くずしの必勝法」。その他、外部講師による「GPS測量」「グラフ電卓の活用」など。

(ウ) 野外実習 (生物・地学分野)



学年	学校設定科目	体験活動・その他
1学年	EC I 英語によるコミュニケーション力 ・英語理解能力 ・発表力、国際性 数学スーパーゼミ I 体験的に学ぶ数学 ・興味・関心 ・探究力 スーパーときめきサイエンス 理科4分野の学習 ・興味・関心 ・課題発見能力	野外実習 ・興味・関心・探究力 ・人間力 開業サイエンスツアー ・興味・関心 小・中学生のための科学教室 ・人間力・発表力 大学における実験ゼミナール ・興味・関心・探究力 特別講演 (全学生対象) ・興味・関心 ・人間力 韓国 (大田科学高校) との交流 ・発表力 国際性
2学年	EC II 英語論文の読解とディベート ・論理的思考力 ・発表力、国際性 数学スーパーゼミ II コンピュータシミュレーション ・興味関心 ・探究力 スーパーチャレンジサイエンス グループ実験研究 ・探究力 論理的思考力 ・人間力 ・発表力	科学系の活性化 ・興味・関心 ・探究力 ・人間力 ・発表力 国際性
3学年	スーパーグローバルサイエンス 個人課題研究 ・探究力 ・人間力 ・発表力 国際性	科学系のコンクール等の積極的応募 ・探究力 ・発表力 海外での科学研究発表 ・発表力 国際性

小・中・大学・企業との連携

ウニ、海藻の採集をし、発生実験、その観察を2泊3日で実施。科学に対する探求心、チームワークが育まれる。

(エ) 地学実験セミナー (対象生徒：1年理数科の地学選択者)

(オ) 理系部活動の活性化

「数学オリンピック」「物理オリンピック」「化学グランプリ」「生物オリンピック」「金沢大学・理学の広場」などに多数参加。

2. 人間力・探究能力を育成する小、中、大、企業の連携の在り方に関する研究

(ア) 関西サイエンスツアー

具体的なもの作りの現場を見たり、先端的な化学に触れ、現場を担っている技術者や研究者と接し、もの作りの面白さを発見し、科学に対する興味・関心を喚起させる。昨年度は京都大学・神戸製鋼加古川製鉄所・武田薬品工業・生命誌研究館。今年度は東京大学・日立機械研究所・筑波学園都市の研究施設・日本科学未来館を見学予定である。

(イ) 著名な科学者による講演会



(ウ) 小・中学生対象の科学教室

「わくわく科学教室」を開催し、小学生を対象に科学の面白さを伝える活動を行う。

(エ) 夏期教職員研修講座 (小松市教育センターとの共催)

本校教諭と市内小中学校教諭の連携を行っている。

(オ) 企業との連携

大学受験のみを目標とするのではなく、大学卒業後の社会人として、自分はどのような仕事をしたいのかなど人生を長いスパンで考える機会にしたいこと、その準備期間としての高校時代を意識させる目的で、企業人による講演会を実施。

(カ) 工学部における実験セミナー

金沢工業大学の指導により、バルサ材による橋の模型を作って、強度コンテスト・デザインコンテスト・プレゼンテーションコンテストを実施。もの作りや工夫することの楽しさ、グループ活動の面白さを体験。



3. 発表力、国際性を育成するための研究

(ア) E C I (English for Communication)

世界で活躍できる科学者や技術者になるために、科学英語の基礎を学習する。

(イ) 海外の科学高校との交流 (訪問)

科学的エリートの育成を目的とする韓国の大田(テジョン)科学高校と、メールやテレビ会議を利用した事前準備を経て、英語による課題研究の発表・授業参加・施設訪問を実施。ホームステイを通して生活体験や文化交流を行う。



(ウ) 海外の科学高校との交流 (受け入れ)

本校生徒の科学高校訪問を受けての交流事業である。3泊4日のホームステイを行い、科学的交流のみならず、文化的な交流を通して親交を深めた。

(文責 石川県立小松高等学校教諭 卯野一郎)